

令和7年度 学校評価
自己評価及び学校関係者評価

学校名	坂戸市立桜小学校
実施日	令和8年2月12日

○「自己評価」及び「学校関係者評価委員評価」の欄には、A～Dを記入してください。
評価 A:よくできている B:概ねできている C:あまりできていない D:できていない
○「自己評価についての評価の説明及び学校の考え」の欄には、理由及び自己評価の結果をどのように受け止めているかを記入ください。

領域	NO	評価項目	自己評価	自己評価についての評価の説明及び学校の考え	学校関係者評価	学校関係者評価委員会の説明
組織・運営	1	本校は、目指す学校像の実現に向け、組織的・計画的に取り組んでいる。	A	・保護者会において動画で分かり易く説明をしている。教職員に対しても職集等で話をしている。 ・学校経営の重点がわかりやすく、全職員それに向けて努力をしている。	A	・保護者会において動画等で工夫し分かりやすくしている。 ・保護者会で分かりやすく説明されていたと思う。
	2	本校は、災害や事故等に対する組織的な体制を整えている。	A	・廊下の床の修繕等をしていく。 ・危機管理マニュアルが全職員に配布されており、アレルギー等対応研修や安全点検等も十分である。	A	・毎朝、教頭先生が校内の安全確認をされている。子どもは地域での自転車乗車時ほぼヘルメットを着用していないことが課題である。 ・河川に近いので、水害時の避難訓練等を充実してもらいたい。 ・危機管理マニュアルが全職員に配布されている。 アレルギー対応研修安全点検が確実に実施されている。 ・桜小だよりを通じて、先生が夏休みに訓練をしていることを知った。
	3	本校は、働き方の改善を推進している。	B	・保護者対応等における超過時間の調整があり、働き方改革をより進めることができると考える。	B	・各人が定時退校日等設定して早く帰る習慣をつけてはどうだろう。 ・学校は時間内に退勤されていても家への持ち帰りがあるのではないか？ ・自分たちの時間も大切にしてほしい。
教育課程・学習	4	本校は、主体的・対話的で深い学びのある授業づくりに取り組んでいる。(市重点項目)	A	・学び合いの研修を十分に行っており、主体的・対話的で深い学びのある授業づくりに、教員一同取り組むことができている。 ・学校としての目標は設定されているが、各クラスの主体的な学びができているかが分からない。深い学びに向かわせるために職員室などでも授業の話が職員同士ができているとよい。	A	・授業参観時にも学び合いの取り組み等がよく見られる。コロナ時「学び合い」ができなかった時との学力の相違を検証してほしい。 ・主体的、対話的で深い学びづくりに取り組めている。
	5	本校は、豊かな心を育む教育の充実を図っている。	B	・挨拶や言葉遣いについては常時指導が必要。家庭の影響が大きいため、啓発活動も必要であると思う。 ・廊下や階段ですれ違った際、挨拶をする児童が若干増えているように思う。一方、登下校時の挨拶はこちらからしても、かえってることがあまりないように思う。適切な言葉遣いについては、人を傷つけるような言葉を度々耳にする。注意をする教員に対しても、聞きたくないような言葉を聞くことはある。根気強く指導をしていく感じるとともに、家庭での言葉遣い(家庭力)も見直す必要があると思う。 ・挨拶は、桜小の課題と感じます。少しずつ増えるように自分(教員)も積極的に挨拶していく。 ・教員が、積極的な挨拶・丁寧な言葉遣いで児童と接し、手本となることを継続して行う。 ・あいさつについて、教員が率先して行って見本となる。言葉遣いについては言い換えができるように指導していく。 ・教員自ら、声を掛け挨拶することを心掛けている。 ・人権教育への取り組みに工夫がなされている。しかし、児童のあいさつや適切な言葉遣いの指導はまだ課題が残る。	A	・家庭での言葉遣いが悪いとなかなか直せない。家庭の方との連携を密にして時間をかけて取り組んでほしい。 ・登校時のあいさつはほとんどの子ができているが(西門)子ども同士の会話で乱暴なことばを聞くことある。あいさつ、言葉遣いは教員だけでなく家庭内で親も見本になってほしい。 ・元気よくあいさつできている。言葉遣いは家庭の影響は大きい。気をつけたい。 ・教員が率先してのあいさつをすることも大切。 ・豊かな心を育むには家庭や地域の力も必要。 ・言葉遣いは家庭でも注意する。 ・本校にもいじめはあると思う。双方の話をしっかり聞いて対応してもらいたい。
資	6	本校は、体罰や交通事故等の不祥事を根絶するための効果的な取組を実施している。(市重点項目)	A	・倫理確立委員会を定期的に行っており、教員皆が体罰や不祥事などに対して、高い意識をもっている。	A	・倫理確立委員会定期的開催されていることがよい。 ・高い意識で取り組んでいる。

領域	NO	評価項目	自己評価	自己評価についての評価の説明及び学校の考え	学校関係者評価	学校関係者評価委員会の説明
質の向上	7	本校は、不登校の未然防止や課題解決のための取組を実施している。(市重点項目)	A	・管理職や通級の先生、特支コーディネーターがすぐに一緒に対応してくれるので、心強いです。「担任1人で対応しない」ができる雰囲気&体制を続けていきたいです。 ・桜ルームの活用により、不登校児童が昨年よりも学校に登校できるようになっている。	A	・個々の児童の件に一つ一つていねいに取り組んでいくのは大変だが長い目で見ると一番大切な事だと思う。 ・保健室とちがい桜ルームがあるのが良い。 ・とにかく、話をしっかり聞いてもらいたい。それに付随して問題もおきるので早めに対応してもらいたい。 ・児童生徒や保護者への話をよく聞く対応に努めている。 ・桜ルームという、心のよりどころになる場所があるのは良い。
学習環境	8	本校は、特別支援教育の充実を図っている。(市重点項目)	A	・特別支援コーディネーターとして、全教職員との連携や児童の実態把握等努めているが、まだ課題が残る。今後も各学級を定期的にまわり、児童の実態把握と、その児童への対応について各担任と相談、検討していきたい。	A	・今後も継続していただきたい。 ・特別支援学級の数が多く充実している印象を受けている。
家庭・地域との連携	9	本校は、積極的に家庭・地域等と連携・協働している。	A	・応援団の緑化の方や図書の方の働きを紹介する場面がほしいです。(図書の方は読み聞かせ以外の仕事) ・校外学習で地域の施設を利用したり、外部講師を招いたりすることで、地域と積極的につながることができている。	A	・これからも地域の大人達との交流を多くしてほしい。 ・地域の老人会(自治会)に声かけをし昔のあそび等を取り入れ教わってはどうか？(例 あやとり、竹とんぼ、お手玉、竹馬、おはじき など) ・ホームページや学校だより定期的に情報発信できている。 ・緑化ボランティアの取組について、現在、ボランティア内のグループラインのみ活動報告を共有しているが、学校や保護者にも共有できるとよい。 ・地域の人を招き、ゲーム的な催しをやってみてはどうか。
小中一貫教育	10	本校は、小中連携を推進している。	B	・桜中・片小の先生と小グループでざくばらんに話す機会があると良い。そこで出た問題点や課題を共通事項で取り組んだら良いと思う。 ・小中連絡会の在り方を考えていきたい。(中学校の授業見学等) ・定期的に小中交流会を行い、小学校と中学校が連携して教育に当たることができている。	B	・運動会や桜フェスタ等、中学校と合同でのゲーム等やってみたら良いのでは。 ・小中、子ども同士(小6と中1)の交流がもっとあれば良い。(例 お互いの体育祭の参加) ・桜中と同じ通学路だが、危険個所の情報共有ができていない。